

二〇二二年度 神戸教育短期大学

社会人選抜（追加）

小論文問題（時間60分）

* 問題は指示があるまで開けないでください

【注意事項】

- 1 問題用紙は監督者の指示により確認をしてください。
白紙の場合は手をあげて知らせてください。
- 2 解答用紙は、原稿用紙2枚（ホツチキス止め）のセット1部です。
- 3 筆記用具を忘れた人は、手をあげて知らせてください。

次の文は、故スティーブ・ジョブズ氏が二〇〇五年六月に米スタンフォード大学の卒業式で話したスピーチの一部（和訳）です。これを読んだ上で、ジョブズ氏が語った「死を意識して生きる」ことを整理し、あなたが感じたことや考えたことを、六〇〇〜八〇〇字にまとめなさい。

私は十七歳のときに「毎日をそれが人生最後の一日だと思って生きれば、その通りになる」という言葉にどこかで出会ったのです。それは印象に残る言葉で、その日を境に三十三年間、私は毎朝、鏡に映る自分に問いかけるようにしているのです。「もし今日が最後の日だとしても、今からやろうとしていたことをするだろうか」と。「違う」という答えが何日も続くようなら、ちよつと生き方を見直せということです。

自分はまもなく死ぬという認識が、重大な決断を下すときに一番役立つのです。なぜなら、永遠の希望やプライド、失敗する不安：これらはほとんどすべて、死の前には何の意味もなさなくなるからです。本当に大切なことしか残らない。自分は死ぬのだと思いが、敗北する不安にとらわれない最良の方法です。我々はみんな最初から裸です。自分の心に従わない理由はないのです。

一年前、私はがんと診断されました。朝七時半に診断装置にかけられ、膵臓（すいぞう）に明白な腫瘍が見つかったのです。私は膵臓が何なのかさえ知らなかった。医者ほとんど治療の見込みがないがんで、もつても半年だろうと告げたのです。医者からは自宅に戻り身辺整理をするように言われました。つまり、死に備えろという意味です。これは子どもたちに今後十年かけて伝えようとしていたことを、たった数カ月で語らなければならないということです。家族が安心して暮らせるように、すべてのことをきちんと片付けなければならない。別れを告げなさい、と言われたのです。

一日中診断結果のことを考えました。その日の午後には生検を受けました。のどから入れられた内視鏡が、胃を通って腸に達しました。膵臓に針を刺し、腫瘍細胞を採取しました。鎮痛剤を飲んでいたので分からなかったのですが、細胞を顕微鏡で調べた医師たちが騒ぎ出したと妻がいうのです。手術で治療可能なきわめてまれな膵臓がんだと分かったからでした。

人生で死にもっとも近づいたひとときでした。今後の何十年かはこうしたことが起こらないことを願っています。このような経験をしたからこそ、死というものがあなた方にとっても便利で大切な概念だと自信をもつていえます。

誰も死にたくない。天国に行きたいと思っている人間でさえ、死んでそこにたどり着きたいとは思わないでしょう。死は我々全員の行き先です。死から逃れた人間は一人もいない。それは、あるべき姿なのです。死はたぶん、生命の最高の発明です。それは生物を進化させる担い手。古いものを取り去り、新しいものを生み出す。今、あなた方は新しい存在ですが、いずれは年老いて、消えゆくのです。深刻な話で申し訳ないですが、真実です。

あなた方の時間は限られています。だから、本意でない人生を生きて時間を無駄にしないでください。ドグマにとらわれてはいけません。それは他人の考えに従って生きることと同じです。他人の考えに溺れるあまり、あなた方の内なる声がかき消されないように。そして何より大事なものは、自分の心と直感に従う勇氣を持つことです。あなた方の心や直感は、自分が本当は何をしたいのかも知っているはず。ほかのことは二の次で構わないのです。

(日経新聞電子版「ハングリーであれ。愚か者であれ」ジョブズ氏スピーチ全訳より)